

京北地域の介護施設との連携について

1 目的

第3回検討会で議論された報告書（素案）において、基本的な在り方として、京北地域の介護施設等との適切な役割分担の下、地域全体で医療・介護・福祉を支える必要があるとされた。

そのため、以下の福祉・介護関係者に、第3回検討会までの内容や議論の状況を報告し、御意見等を聴取したものの。

2 京北地域の福祉・介護関係者

- ①北桑会（ケアハウス：なごみの里、特養：豊和園、特養：しゅうざん）
- ②三幸会（グループホーム：ケアサポートセンターけいほく）
- ③NPO介護施設ふるさと園 京北山国ふるさと園（介護付有料老人ホーム）
- ④右京区社会福祉協議会京北事務所

3 京北地域の福祉・介護関係者からの主な意見

<京北病院について>

- ・ 協力医療機関として何かあれば京北病院の医師に相談できることはありがたい。
- ・ 京北病院には、施設での状態の急変や健康管理が必要となった方等、急な対応を断られることがある（特に夜間や休日）。
- ・ 地域外の医療機関を受診するとなると、付添など職員の負担が大きい。
- ・ 老健の患者は、グループホームの対象になれば受入れ可能。
- ・ 老健の患者の状態はたしかに特養と似ている。地域の介護施設は長期入所の受け皿にはなるが、一方で人材確保が課題となっている。

<京北地域について>

- ・ 京北地域では送迎が課題。それぞれの団体等での取組を協力していければと良いと思う。
- ・ 京北地域全体で医療と介護を総合的、複合的に連携して確保していく必要がある。
- ・ 京都・乙訓医療圏はベッド過剰地域。今後は在宅医療が中心となり、訪問看護・診療が注目される。
- ・ 個々の患者の対応について、地域の施設同士（医療・福祉・介護関係者）で話し合う場がない。定期的に会議の場があれば良い。まずそこから始めるべき。

4 今後の取組

上記の御意見を受けて、京北地域の関係者が顔を合わせる会議の場を定期的に設定するなど、日頃から京北地域の医療・福祉・介護関係者などの顔の見える関係づくりに向け、連携強化を図り、京北地域の持続可能な医療の提供に向け、地域とともに取り組んでいく。